FTD-G732AS シリーズ / FTD-G932HS シリーズ

液晶ディスプレイ

ユーザーズマニュアル

このたびは本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は弊社製液晶ディスプレイの取扱方法や注意事項について解説しています。
本製品を使用する前に必ず最後までお読みになり、正しく使用してください。

■ 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部または全部を弊社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。

■ BUFFALO™ は、株式会社メルコホールディングスの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では、™、®、© などのマークは記載していません。

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般の OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・ 医療機器や人体に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・ 一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■ 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

本製品の仕様について

● TFT 液晶パネルは、精密な技術に基づいて製造されています。パネル内に画素欠け（黒点）や常時点灯する点（輝点）が存在することがありますが、製品の欠陥や故障ではありません。あらかじめご了承ください。

● 画面に表示される縞模様（モアレ）について

２～３色のドットを平行に隣接したパターンや格子状のパターンを表示させると､画面上に「モアレ」とよばれる縦縞の干渉模様が表示されることがあります。これは発光色が相互に干渉することにより発生するもので、故障ではありません。縞模様が表示されたときは、最適な画質を得るために「画面に縞模様（モアレ）が生じる／ノイズが出る」【P7】を参照して画面表示の調整を行ってください。

● 静止画を長時間表示すると、画面表示を切り換えても静止画の残像が残る「焼き付き現象」が生じることがあります。

OS のスクリーンセーバー機能などを使用して、静止画を長時間表示しないようにしてください。こまめに電源を OFF にすることをおすすめします。

●「スムージング機能」について

全画面表示に設定している場合に推奨解像度未満の解像度に設定すると、画面が拡大されてフルスクリーン表示になります。

このとき、文字やグラフィックをなめらかに表示するために、本製品は自動的に中間色を使った補完処理を行います（スムージング機能）。文字やグラフィックがにじんだように見えることがありますが、故障ではありません。

また、白地に黒文字を表示すると見づらいときは、コントラストを調整してください。【P3】

表示例

スムージング機能あり

スムージング機能なし

● パワーセーブ機能について

電力消費を抑えるため､一定時間パソコンを操作していない場合に自動的にパワーセーブ機能が働きます。
パワーセーブ機能が働くと、電源表示 LED がオレンジ色に点灯して画面表示が消えます。
マウスを動かしたりキーボードのキーを押せば、通常の動作状態に戻ります。

※ パワーセーブ機能は、DPMS（VESA）機能を搭載するパソコンに接続し、省電力モードに設定されている場合にのみ働きます。

● 液晶ディスプレイの特性

液晶ディスプレイには次のような特性があります。

・色純度の劣化　白黒反転表示や明るい画面で長時間使用を続けると、色純度が劣化することがあります。その場合は輝度を調整してください。

・焼き付き　同じ画面を長時間表示させていると、画面表示を切り換えても残像が残る「焼き付き現象」が生じることがあります。スクリーンセーバーや省電力機能などを使用するか、こまめに電源を OFF にしてください。

画面の調整

OSD 機能を使って画面表示を調整します。

調整のしかた

※ 次の作業を始める前に本製品をパソコンに接続し、周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に
電源スイッチを ON にしておいてください。

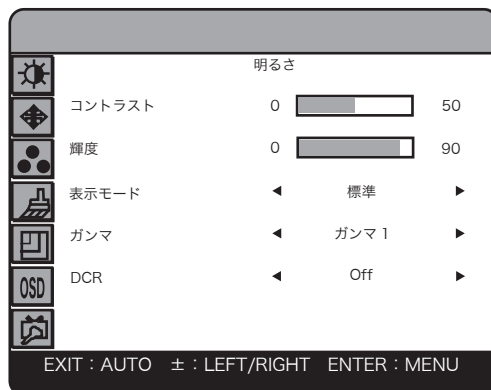
AUTO　-◻<　>◻+　MENU　⏻

シンボル	機能
AUTO	･OSD メインメニューを閉じます。 ･OSDサブメニューからメインメニューへ戻ります。 ･OSDメニューが開いていないとき、自動調整を実行します。
-◻<	･OSDメニュー画面でカーソルを左方向に移動します。 ･OSDサブメニューで数値設定の変更(数値下降)を行います。 ･OSDメニューが開いていないとき、音量の調整メニューが開きます。
>◻+	･OSDメニュー画面でカーソルを右方向に移動します。 ･OSDサブメニューで数値設定の変更(数値上昇)を行います。 ･OSDメニューが開いていないとき、音量の調整メニューが開きます。
MENU	･OSD メインメニューを開きます。 ･OSDサブメニューを開きます。 ･選択した項目を決定します。 ･本体の電源が OFF の状態で、MENU ボタンを押しながら⏻ボタンを押して電源を ON にすると OSD の ロック / 解除をします。
⏻	電源のON/OFFを行います。

■ OSD メインメニュー画面

MENU ボタンを押すと、最初に表示される画面です。もう一度 MENU ボタンを押すと、OSD サブメニューが表示され、各項目の詳細な設定をすることができます。

■ 設定手順

1. MENU ボタンを押してメインメニューを表示させます。
2. -◻<または>◻+ボタンを押して項目を選択し､MENU ボタンを押します (サブメニューが表示されます)。
3. -◻<または>◻+ボタンで設定したい項目を選択し、MENU ボタンを押します。
4. -◻<または>◻+ボタンでで設定値を変更します。
5. AUTO ボタンを押して、メインメニューに戻ります。
6. AUTO ボタンを押して、メインメニューを閉じます。

OSD 機能について

OSD とはオンスクリーン ディスプレイの略称です。
ディスプレイ表示に関する設定項目の選択やその調整の度合いを、実際にディスプレイ上に表示させて確認しながら調整するための機能です。
画面の表示サイズや表示位置、明るさ、コントラストなどを設定できます。

次のページへ続く

項目	内容	設定範囲
明るさ	コントラスト、輝度などを調整します。	
コントラスト	画面の濃淡を調整します。	0〜100
輝度	画面の明るさを調整します。	0〜100
表示モード	表示モードを標準、文字(*1)、インターネット(*1)、ゲーム(*1)、映画(*1)、ECO(*1)から選択します。	標準/文字/インターネット/ゲーム/映画/ECO
ガンマ	ガンマの設定します。	ガンマ1/ガンマ2/ガンマ3
DCR	ダイナミックコントラスト機能の設定します(*2、3)。	On/Off
画面調整	クロック、フェーズ、位置を調整します(*4)。	
クロック	画面に縦の縞模様(モアレ)が出る場合に調整します。	0〜100
フェーズ	画面にノイズが出る場合や、文字などの輪郭がぼやける場合に調整します。	0〜100
水平位置	画面の位置を調整します。	0〜100
垂直位置		
色温度	色温度、RGBの調整をします(*5)。	
色温度	画像の白色部分が赤味を帯びていたり、青味を帯びているときに調整します。印刷時やフォトレタッチ時など用途にあわせて調整してください。	USER/6500K/7300K/9300K sRGB
赤色	赤色の濃淡を調整します。	0〜100(*6)
緑色	緑色の濃淡を調整します。	
青色	青色の濃淡を調整します。	
イエロー	イエローの濃淡を調整します。	
シアン	シアンの濃淡を調整します。	
マゼンタ	マゼンタの濃淡を調整します。	

*1　これらの表示モードでは、輝度、コントラストの変更はできません。
*2　DCRをOnにすると、コントラスト、輝度、ガンマの変更はできません。表示モードは「標準」に戻ります。色温度は、6500Kに固定されます。
*3　DCR、Color Boost、Picture Boostは同時に有効にすることはできません。
*4　アナログRGB入力端子(D-sub15)で接続したときに、自動調整を行っても満足のいく表示が得られなかった場合にだけ、手動で設定してください。設定値は、使用する解像度や、ディスプレイの周波数、パネルによって異なります。
FTD-G932HSのデジタルRGB入力端子(DVI)に接続したときは、本項目は調整できません。
*5　色温度を設定すると、DCR、Color Boost、Picture BoostはOffとなり、表示モードは「標準」に戻ります。
*6　「色温度」の設定値を「USER」にした場合に有効になります。Color BoostやPicture BoostがOnのときは調整はできません。

次のページへ続く

項目	内容	設定範囲
Color Boost	特定の色に関して色合いを変更します(*3)。	
フルモード	画面全体の色を強調します(*7)。	On/Off
人物モード	肌色(赤系)の色合いを変更します(*7)。	On/Off
風景モード1	緑色系の色合いを変更します(*7)。	On/Off
風景モード2	青色系の色合いを変更します(*7)。	On/Off
自動モード	自動的に人物モード、風景モード1、2を切り替えます(*7)。	On/Off
デモ	Color BoostとPicture Boostの設定デモを表示します(*8)。	On/Off
Picture Boost	特定の箇所に対して輝度などを調整します(*3)。	
フレームサイズ	Picture Boostの適用範囲を調整します(*9)。	14〜100
輝度	適用範囲の明るさを調整します(*9)。	0〜100
コントラスト	適用範囲の濃淡を調整します(*9)。	0〜100
色彩	適用範囲の色合いを調整します(*9)。	0〜100
彩度	適用範囲の鮮やかさを調整します(*9)。	0〜100
位置	適用範囲の水平位置、垂直位置を調整します(*9)。	0〜100
Picture Boost	Picture BoostのON/OFFを設定します。	On/Off
OSD設定	OSD設定メニューの位置、表示時間、言語を設定します。	
OSD水平位置	OSD設定メニューの表示位置を調整します。	0〜100
OSD垂直位置		
OSDタイムアウト	OSD設定メニューの表示時間を調整します。	5〜100
OSD言語(*10)	OSD設定メニューの表示言語を選択します。	日本語/English
その他	その他の設定をします。	
入力切替(*11)	入力信号を切り替えます。	アナログ/デジタル
自動調整(*12)	画面のノイズ、クロック、画面位置を自動調整します。	Yes/No
DDC/CI	DDC/CIの有効/無効を選択します。	Yes/No
リセット	OSD設定を出荷時設定に戻します。	Yes/No
Information	現在の設定の情報を表示します。	ー

*7　いづれか１つのモードをOnにしてください。複数のモードをOnにすることはできません。
*8　画面左半分に対して機能をＯｎ、右半分に対して機能をOffとした表示をします。
*9　Picture BoostをOnにした場合に設定できます。
*10 OSやアプリケーションで使用する言語は変更されません。
*11 FTD-G732ASシリーズでは表示されません。
*12 FTD-G932HSのデジタルRGB入力端子(DVI)に接続したときは、本項目は実行できません。

■ ECO モードの設定

OSD メニューから [明るさ]-[表示モード]-[ECO] を選択すれば、消費電力を抑える ECO モードに設定することができます。

■ OSD ロックの設定

誤って OSD ボタンを操作しても機能しないように、OSD メニュー画面にロックをかけることができます。

ロック手順	**本体の電源が OFF の状態で、MENU ボタンを押しながら ⏻ ボタンを押して電源を ON にします。MENU ボタンは OS の画面が表示されるまで押し続けてください。OS の画面が表示されたら MENU ボタンから手をはなします。**
ロック解除手順	**上記と同じ手順でロックの解除を行うことができます。**

※ OSD ロックを設定した状態でも、以下の操作は行うことができます。
- -<または>+ボタンを押して音量調整をする。
- AUTO ボタンで自動調整を実行する。

自動調整のしかた

初めて本製品をパソコンに接続したときなどは、自動的に最適な表示が得られるよう調整を行いたいときは、次のように行ってください。

※ MS-DOS プロンプトなど黒色部分が多い画面やアプリケーション画面などを表示した状態で自動調節を行っても、十分な効果が得られないことがあります。Windows(3.1 を除く) をご使用の方は、LCDADJ.EXE を実行し、画面調整用の画像を表示させてから自動調整を行うことをおすすめします。Windows3.1 を使用している方は、1 ドットずつの白黒市松模様など調整に適した画像を作成し、表示されることをおすすめします。

1. **周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチを ON にします。**

2. **弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスから LCD Utillity Disk をダウンロードし、解凍したファイルから LCDADJ.EXE をダブルクリックしてください。**
   画像（画面いっぱいにグレーの色が表示されたように見えます）が表示されます。

3. **AUTO ボタンを押します。**
   自動調整が行われます。

   ※ Macintosh の場合は OS が起動し、画面表示が静止したら AUTO ボタンを押してください。

   ※ 調整には数秒かかります。その間は設定メニューの操作はできません。自動調整を行っても満足のいく表示が得られなかった場合にだけ、手動で調整してください。

困ったときには

本製品の使用時に起こりうるトラブルの内容と対処方法を説明しています。これらの確認を行っても正常に動作しないときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

画面に何も表示されない

原因①▶ ディスプレイケーブルと、ディスプレイまたはグラフィックボードとの接触不良が考えられます。

原因②▶ パソコンに取り付けたグラフィックボードの接触不良が考えられます。

原因③▶ パソコンに取り付けたメモリの接触不良が考えられます。

対　応▶ ①～③ パソコンの電源スイッチを OFF にしてからグラフィックボード、ディスプレイケーブル、メモリを接続し直してください。

電源スイッチが ON のままディスプレイケーブルや電源ケーブルを抜き差ししないでください。本製品を破損する場合があります。

原因④▶ 明るさが最も低い状態に設定されている可能性があります。

対応④▶ 設定メニューの [輝度] で画面の明るさを調節してください。【P3「輝度」】

原因⑤▶ 電源が OFF またはサスペンドモードになっている可能性があります。

対応⑤▶ 電源表示 LED が消えているときは本製品の電源が OFF になっています。電源ボタンを押して ON にしてください。
電源表示 LED がオレンジ色で点灯しているときは、サスペンドモードになっています。
キー入力やマウスを動かすなどの操作を行って、サスペンドモードから復帰してください。

原因⑥▶ 本製品が対応していない解像度が選択されています。

対応⑥▶ 表示モードの設定時に、本製品が対応していない垂直周波数（Refresh Rate）を選択しないでください。【別紙「はじめにお読みください」】
万一、対応外の周波数を選択してしまった場合は、画面に何も表示されなくなったり、表示が乱れたりします。（インターレースの場合は画面が分割されるなど、正常な表示が行えません）。その場合は次の方法で正しい周波数を選択し直してください。

< Windows Vista/XP/Me/98/95 の場合>
Windows を Safe モードで再起動し、選択可能範囲の周波数を選択してください。

< Windows 2000/NT の場合> Windows を VGA モードで再起動し、使用可能範囲の周波数を選択してください。

< Windows 3.1 の場合> DOS 上で SETUP.EXE を起動し、ドライバに VGA を選択してから Windows を再起動してください。再起動後、使用可能範囲の周波数を選択し直してください。

※設定可能な垂直同期周波数は、別紙「はじめにお読みください」で確認してください。パソコンに取り付けているグラフィックボード（パソコン内蔵のもの含む）によっては、設定可能範囲以外の数値（例：90Hz、100Hz）を選択できる場合がありますが、必ず別紙「はじめにお読みください」に記載の対応周波数の範囲内で選択してください。

Windows の画面でタスクバーが表示されない

原　因▶　仮想スクリーンモードで、画面の下側が表示領域の外に出ています。

対応①▶　マウスカーソルを画面の一番下に移動すると､画面全体がスクロールしてタスクバーが表示されます。

対応②▶　仮想スクリーンモードを使用しないようにするときは､次の操作を行って解像度を下げてください。

1. **デスクトップ上でマウスの右ボタンをクリックし､表示されたメニューから[プロパティ]を選択します。**
2. **[画面のプロパティ] 画面が表示されたら、[設定] タブ（Windows 95/NT4.0 の場合は [ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲの詳細] タブ）をクリックします。**
3. **[画面の領域]（Windows 95/NT4.0 の場合は [ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ領域]）のスライドバーをドラッグして移動させ、解像度を下げます。**

画面に縞模様（モアレ）が生じる／ノイズが出る

2 ～ 3 色のドットを平行に隣接したパターンや格子状のパターンを表示すると、モアレと呼ばれる干渉縞が生じます。

原　因▶　[フェーズ] と [クロック] が正しく調整されていません。

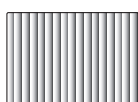
対応①▶　Windows（3.1 を除く）をお使いの方は、次の手順で調整してください。

※ 次の操作は、使用する解像度、垂直周波数（Refresh Rate）で行ってください。

1. **弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスから LCD Utillity Disk をダウンロードし、解凍したファイルから LCDADJ.EXE をダブルクリックしてください。**
2. **「自動調整のしかた」【P5】の手順にしたがって、自動調整をします。**
   調整には数秒かかり、その間は設定メニューの操作はできません。

正しい画面状態

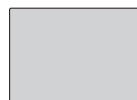
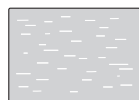
自動調整を実行しても縞模様が解消されないときは、続いて次の操作を行います。

1. **本製品の MENU ボタンを押します。**
   設定メニューが表示されます。
2. **-<または>+ボタンを押してを選択し、MENU ボタンを押します。**
3. **-<または>+ボタンで「クロック」を選択し、MENU ボタンを押します。**
4. **-<または>+ボタンで値を変更し、最適な表示になるように調整し、AUTO ボタンを押します。**

正しい画面状態

波模様のない状態にしてください。

次のページへ続く

5 -◁＜または＞◀+ボタンで［フェーズ］を選択し、MENU ボタンを押します。

6 -◁＜または＞◀+ボタンで値を変更し、最適な表示になるように調整します。

ノイズのない状態にしてください。

正しい画面状態

7 AUTO ボタンを 2 回押します。

変更した設定内容が保存され、設定メニューが終了します。

8 Enter キーなどの任意のキーを押すか、マウスのボタンをクリックします。

LCDADJ.EXE が終了し、通常の Windows 画面が表示されます。

対応② ▶ デスクトップパターン（壁紙）にモアレが生じるときは、各 OS のヘルプを参照してデスクトップパターンを変更してください。

ノイズが出ないよう調整したにもかかわらず､アプリケーション実行時に画面が乱れることがある（特に動画再生時）

原　因 ▶ 画面の調整中に、ノイズが解消できるポイント（設定メニューの［フェーズ］）の設定値が 2 箇所ある場合があります。2 つの解消ポイントでの画面表示は同じように見えるため、どちらを設定値に選んでもノイズは除去できたように見えますが、設定値が異なるため、調整後のアプリケーション画面でノイズが発生することがあります。
その場合は、選択したポイント以外のポイントを選択し直す必要があります。

対　応 ▶ 再度設定メニューの[フェーズ]でノイズを除去する設定を行ってください。このとき、一度出荷時設定に戻すと設定しやすくなります。

※出荷時設定に戻すには､OSD メインメニューで「その他」を選択して MENU ボタンを押し、サブメニュー画面で「リセット」を選択して、MENU ボタンを押します。出荷時設定に戻した場合、画面のサイズや位置などすべての項目が出荷時の状態に戻りますので、ご注意ください。必要ならば他の設定項目も再設定してください。

自動調整で思い通りの結果が得られない

原　因 ▶ 調整中の画面表示が適切でない

対　応 ▶ 調整結果は、実行の際に表示されている画面に影響されます。
もっとも効果的なのは、1 ドットずつの白黒市松模様が全体に表示された画面です。
DOS などの黒い部分が多い画面や、アプリケーション画面では十分な効果が得られない場合がありますのでご注意ください。
Windows(3.1 を除く) をご使用の方は､弊社ホームページ (buffalo.jp) のダウンロードサービスから LCD Utillity Disk をダウンロードし、解凍したファイルから LCDAD.EXE を実行すれば、この画像が表示されます。Windows 3.1 をご使用の方は適切な画像を作成し、表示されることをおすすめします。

上記の対策を行っても、画像信号の状態によっては（複数に分岐している、ノイズが発生している、など）十分な結果が得られないことがあります。あらかじめご了承ください。